



平成30年度 中央区当初予算案 発表記者会見



平成30年2月8日（木）

■ 築地の活気とにぎわいを継承

築地魚河岸(外観)



築地魚河岸(店舗の様子)

■ 築地の活気とにぎわいを継承



築地秋まつりの様子



築地場外市場春まつり半値市の様子

■現在の晴海地区



東京2020大会後の選手村(イメージ)

2016.3.31 東京都公表

海辺に開けた景観と調和

- ・街区内から水辺への視線・動線の確保
- ・海から見た住宅街区の良好なスカイライン
- ・住宅街区と周辺の緑地・広場との一体感

マルチモビリティ
ステーション

船着場

晴海中心軸

水素ステーション

(学校予定地)

開放的な広場空間

- ・港の景観を楽しむ散策路
(レインボーブリッジなど)
- ・海を臨むカフェなどの設置

変化のある街並み・建物形態

- ・色彩の緩やかな変化(低層部⇒高層部)
- ・壁面デザインの工夫(表面に凹凸)

※現時点でのイメージです

中央区の魅力を発信し 都市観光を推進します

- 観光情報センターを中心とした情報発信
- インスタグラムによる情報発信
- 外国人観光客向け
モバイルWi-Fiルーターの無料貸し出し
- 日本橋船着場における舟運の活性化



スポーツ環境の充実と 健康づくりを推進します

- 学校におけるスポーツ開放の拡大
- 健康ウォーキングマップの作成・活用
- 介護予防プログラムの開発・普及

大会後を見据えた まちづくりを推進します

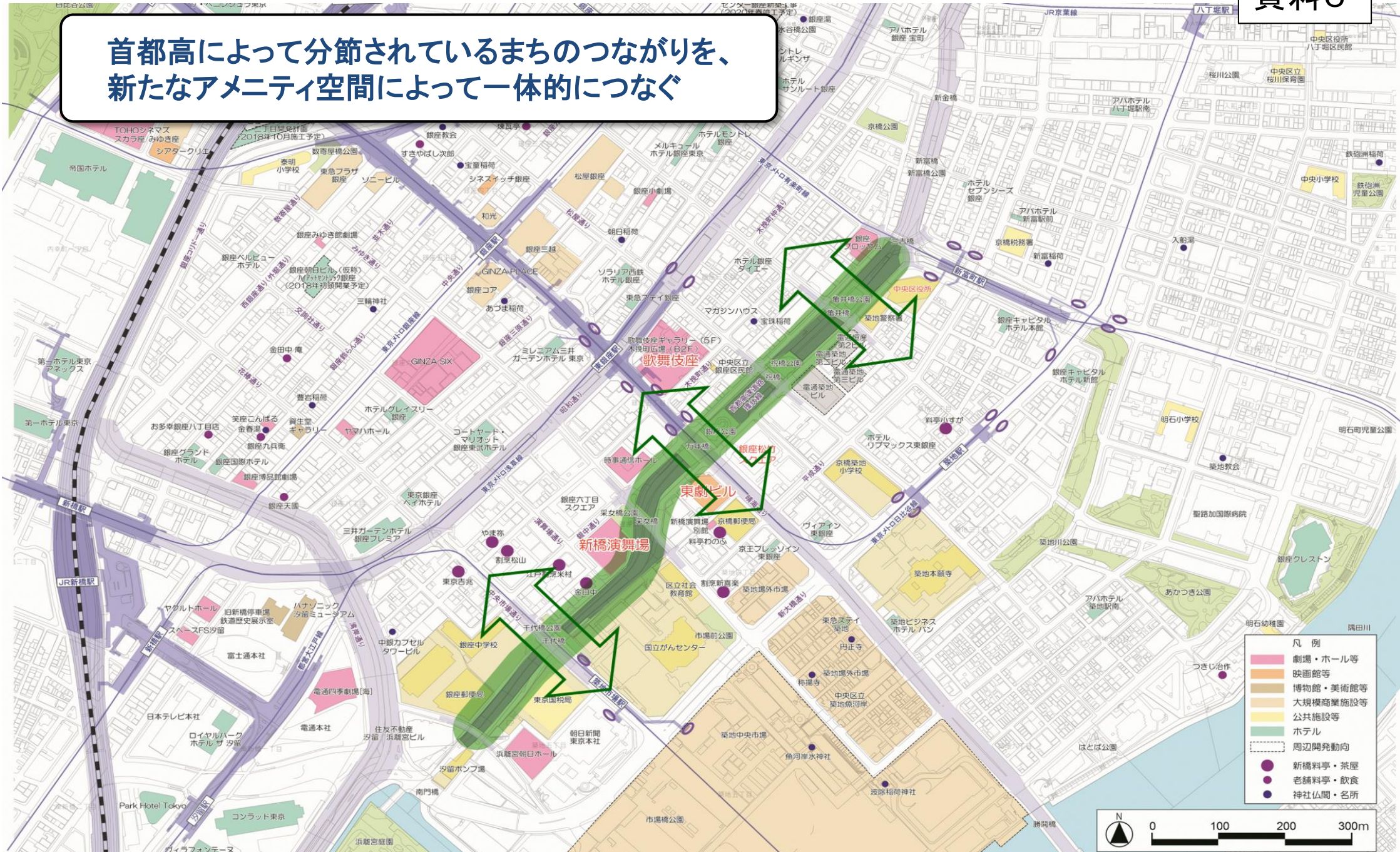
- 晴海地区における施設整備
小学校・中学校・認定こども園・図書館・
特別出張所・おとしより相談センター・
保健センター

国際イベントを開催し 文化活動を推進します

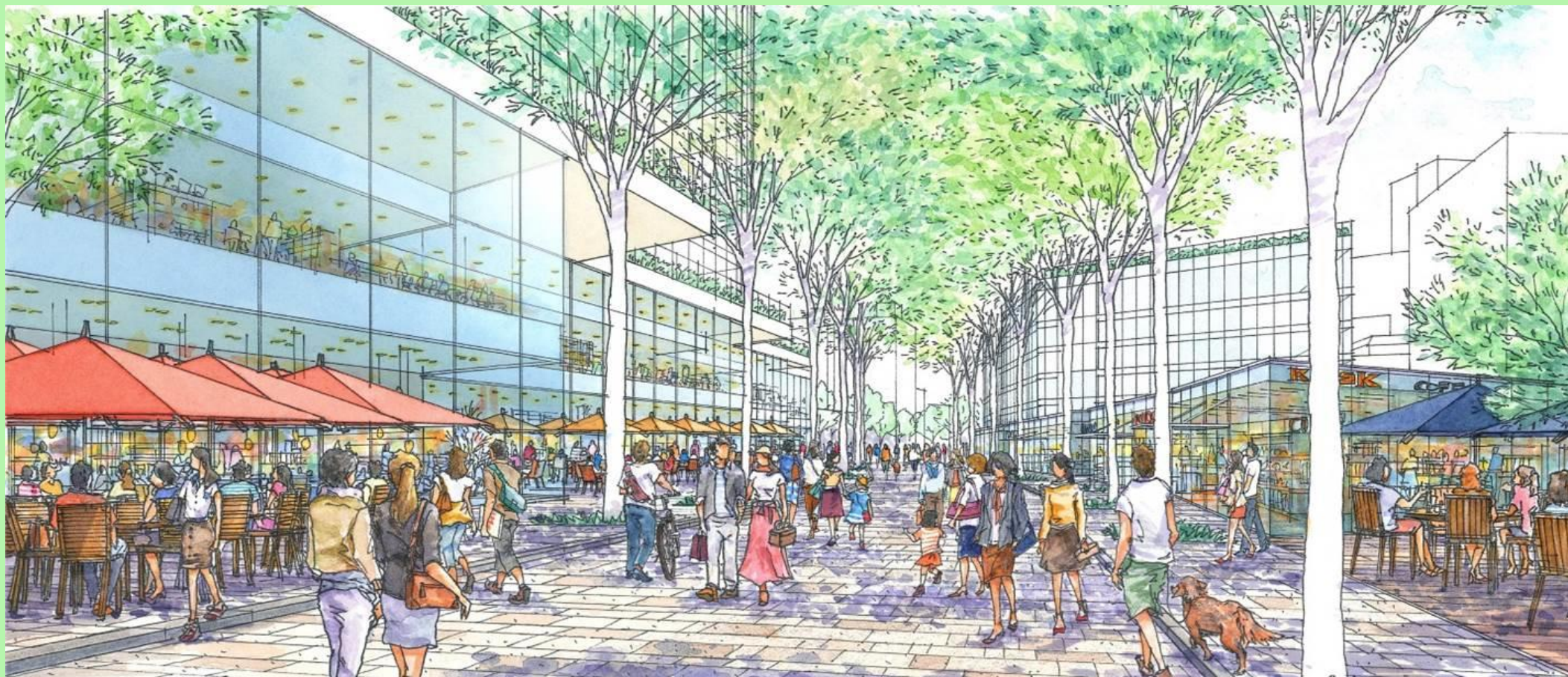
- 東京国際合唱コンクールの開催
- まちかど展示館の整備・活用

銀座、築地両方のまちをつなぐ新たなアメニティ空間

首都高によって分節されているまちのつながりを、
新たなアメニティ空間によって一体的につなぐ



■銀座、築地両方のまちをつなぐ新たなアメニティ空間



イメージパース